

成城大学民俗学研究所国際セミナー

ドイツ民俗学との対話

日時：2018年10月12日（金）13:00～17:00

場所：成城大学図書館 AV ホール

講演

ヨハネス・モーザー（ミュンヘン大学・ドイツ民俗学会会長）

「ドレスデンのハビトウスー「美しい」町の卓越性と表象」

ディスカッション

岡田浩樹（神戸大学大学院）

法橋 量（慶應義塾大学）

通訳

金城ハウプトマン朱美

クリスチャン・ゲーラット

司会

及川祥平（成城大学）

主催：成城大学民俗学研究所
共催：成城大学グローバル研究センター
（私立大学研究ブランディング事業）

【講演概要】

古い歴史のある町ドレスデンは、ドイツの東に位置し、17世紀からザクセン王国の王都として繁栄した。19世紀には、ドイツでもっとも重要な芸術都市であり文化都市であった。ゲオルク・ジンメルが世界的に有名な論考「大都市と精神生活」を出版したのはこの都市である。一方で、ナチズムのコンセプトなど過度に取り入れた愛国的で保守的な市民階級の牙城があったのもこの都市だった。本講演では、何世紀にもわたり一都市を特徴づけているディスポジションが、都市の歴史の形成的段階において、どのように形成されているのか、ハビトゥスの概念を用いて明らかにしたい。経済、建築、環境、職業や人びとを視野に入れることにより、ドレスデンのように、第二次世界大戦の終わりにほぼ壊滅状態に至った都市で、なぜ特定の考え方やメンタリティーが長年影響を与え続けているのかという問いも解明できるだろう。

※通訳あり

【講師紹介】

Johannes Moser (ヨハネス・モーザー)

ルードヴィヒ・マキシミリアン大学ミュンヘン教授（民俗学、ヨーロッパ・エスノロジー）。現在、ドイツ民俗学会会長。専門は都市人類学、脱工業化社会の変動、文化と労働、若者文化と日常文化。著作に『ドレスデン—レジデンス都市の民族誌的探検』（共編著、2006）、『境界と差異—社会的・文化的な分界の力について』（共編著、2006）『1945年～1970年の民俗学の状況』（共編著、2015）、『ミュンヘンにおけるヨーロッパ・エスノロジー』（共編著、2015）ほか多数。また本セミナー関連論文として、「ヨーロッパ民族学における都市研究の現在」『日本民俗学』294号など。

成城大学民俗学研究所

東京都世田谷区成城 6-1-20

(小田急線「成城学園前」 徒歩4分)

キャンパスマップはこちら。

<http://www.seijo.ac.jp/about/map/>